

特定外来生物等専門家会合で特定外来生物に指定することが適当とされた外来生物の概要

種類名	学名	評価の理由
シリアカヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>	<ul style="list-style-type: none"> 海外では生息地が競合する在来鳥類との競合により生態系への被害が発生。 日本国内に定着した場合には、在来鳥類と競合する可能性がある。 海外では果樹や野菜に対する害鳥となっており、日本でも農業被害を与える害鳥となるおそれがある。
ヒゲガビチョウ	<i>Garrulax cineraceus</i>	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内では、愛媛県で確認されて以降、分布を拡大している。 今後、個体数が増加した場合、特定外来生物に指定されているチメドリ科4種（ガビチョウ、カオグロガビチョウ、カオジロガビチョウ、ソウシチョウ）同様、在来生態系を攪乱するおそれがある。
アングラトゥスマルバネクワガタ	<i>Neolucanus angulatus</i>	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内に定着した場合、日本固有の在来種であるアマミマルバネクワガタや、オキナワマルバネクワガタ、ヤエヤママルバネクワガタと交雑し、遺伝的攪乱や繁殖干渉を起こすおそれがある。 生息場所である樹洞や餌となる腐植質（樹洞内に溜まったフレーク状の褐色ないし黒色の腐植物質）をめぐり、在来のマルバネクワガタを含む樹洞性昆虫類と競合し、生態系に影響を及ぼす可能性がある。
バラデバマルバネクワガタ	<i>Neolucanus baladeva</i>	
ギガンテウスマルバネクワガタ	<i>Neolucanus giganteus</i>	
カツラマルバネクワガタ	<i>Neolucanus katsuraorum</i>	
マエダマルバネクワガタ	<i>Neolucanus maedai</i>	
マキシムスマルバネクワガタ	<i>Neolucanus maximus</i>	
ペラルマトゥスマルバネクワガタ	<i>Neolucanus perarmatus</i>	
サンダースマルバネクワガタ	<i>Neolucanus saundersii</i>	
タナカマルバネクワガタ	<i>Neolucanus tanakai</i>	
ウォーターハウスマルバネクワガタ	<i>Neolucanus waterhousei</i>	

<p>クビアカツヤカミキリ</p>	<p><i>Aromia bungii</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国内では一部地域で定着しており、サクラ等への加害による枯損が確認されている。 ・ 森林に侵入定着した場合、植生への食害や在来カミキリムシとの競合により森林生態系に被害を及ぼすおそれがある。 ・ 桜並木への加害による景観への悪影響や、被害木の枯損や落枝等による二次的な人的被害も懸念される。
<p>アカボシゴマダラ ただし、次のものを除く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アカボシゴマダラ奄美亜種 (<i>Hestina assimilis shirakii</i>) 	<p><i>Hestina assimilis</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国内では、名義タイプ亜種である <i>Hestina assimilis assimilis</i> が既に関東地方を中心に広く定着し、現在も分布を拡大している。 ・ 近縁の在来種であるゴマダラチョウと交雑し、繁殖干渉を引き起こすおそれがある。 ・ 奄美諸島に固有の在来亜種 <i>Hestina assimilis shirakii</i> が分布しており、同地域に外来の本種が侵入した場合、遺伝的攪乱を引き起こすおそれがある。